

森の木を強くするには 会津若葉幼稚園（福島県会津若松市）

幼稚園からスクールバスで約 20 分の会津美里町にある若葉の森は、自然の中で自由に四季に応じていろいろな活動ができるような約 8 万平方メートルの森である。『若葉の森探険』を、3 オークラスは年に 2 回・4 オークラスは年に 4 回・5 オークラスは年に 6 回体験できるようにし、若葉の森での活動を継続して行うことで子どもたちの中に経験が積み重なることを大事にしている。年齢に応じて【触れて、感じて、考える】経験～自分で見たり、触ったり、考えたり、確かめたりして「面白さ」「楽しさ」を感じることができるよう計画して行っている。

3 オ【好奇心が芽生える】……・自然の中で「楽しかった」という直接体験をし、遊びが広がる。

4 オ【好奇心を伸ばす】……・発見や驚きを友達と共有しながら、自分なりに答えを想像し、興味関心を広げる。

5 オ【探究心へのつながり】…・図鑑や虫めがねなどを使ったり周りから情報を得たりして、試行錯誤しながら自分なりの答えを模索していく。

・経験したことや新しく知ったことなどを友達や自分より小さなクラスの友達に教え、伝える・表現する。

・自分たちの森を大切に思い、守ろうとする。

<森を大切に思い、森を育てる取り組みを進める>

子どもたちの自然体験を大切に考えて始めたが、子どもたちの姿から「若葉の森を大切に育てる活動」が展開できるということ学んだ。また、5 歳児が自分たちの経験から学んだことを 4 歳児に伝えることで、若葉の森への思いや活動も受け継がれていることが見えてきた。そこで、地域の施設や環境、人材など、子どもたちを取り巻く教育力を保育に取り込んで、「子どもたちと共に、森を育てる」という思いをもって展開することにした。

（平成 16 年度）

園で育てたカブトムシを森に放す（森が自然の生き物にとって大切な場であることを実感し、森に放すことに気付き行う）

間伐を行う（森の木を大切に育てるためには、間伐が必要なことを子どもたちに知らせる 実際には 5 歳児が間伐作業を行うことで、4 歳児に伝わる）

園で育てたドングリの苗を植樹する（3 歳児が拾ったドングリで苗を作り、5 歳になった時に森に植樹することが恒例になる）

（参考事例 http://www.sony-ef.or.jp/preschool/webmagazine/webmag_jirei/jirei09_01.html）



（平成 17 年度）

森の木を強くしたいと考える（雪で折れた木が多いことに気付き、森の木を強くして森を元気にしようと話し合う）

間伐を行う。間伐した木を大切にしたいと考える（森の木を大切に育てるために、木によく日が当たり栄養が行き渡るように間伐をすることを学ぶ。間伐で切った木の利用について考える 昨年はベンチを作ったことなど知る）

炭は空気や水などをきれいにすることを学ぶ。炭を作る（地域の施設や森の案内人の方から、「炭で川や空気がきれいになること、炭が幼稚園でも作れることなどを教わる。いろいろな炭作りをする。

炭で、園内のいろいろな所の匂いや飼育物の水をきれいにしたり、栽培の土作りに利用したりする。

（トイレ、靴箱、水槽などに炭を利用しきれいにする） 3、4 歳児に伝える。



（平成 18 年）

森を大切にしたい。森を元気にしたいと思う（新 5 歳児）（地域の施設や森の案内人の方から話を聞くことで、自分たちが 5 歳児から教わりやろうとしていることを納得したり、自分たちができることを考えたりする）

間伐の必要なことを感じる。間伐した木を大切にしたいと考える（若葉の森に森の木を炭にできる炭焼き窯ができ、いろいろな物で作る炭より、木でできるしっかりした木炭がいいと知ったことが生きて、思いが広がる）

（参考事例：実践事例集 vol.4 30～31 頁）

みどころ

子どもたちは様々な日常的な情報から、「空気や水が汚れること」や「自然を大切にしなければいけないこと」を感じています。そうした実態の中、この実践の子どもたちは、空気や水をきれいにしたり、大好きな「若葉の森」を自分たちで大切に育てたりすることができるという思いをもつ体験をしています。「大切にすると知っているのではなく、大切にできる意欲や心情が育まれています。